

日本共産党

しまむら新一議員の ウイークダイアリー

市議会議員報告

23.8/7 No.14



日本共産党市議会議員
しまむら新一事務所
事務所/〒270-0021
松戸市小金原4-11-29
☎047-309-2651
FAX047-309-2652
松戸・鎌ヶ谷地区委員会
事務所/〒270-2252
松戸市千駄堀1810-2

—松戸の地域から被爆者の方たちの遺志を受け継ぐ— 被爆体験を語り続けた生島涉さん

(松戸被爆者の会会長/千葉県原爆被爆者友愛会副会長)



の副会長や松戸被爆者の会の会長などを歴任しながら、核兵器廃絶のため、行政の平和事業への関与、被爆者の方の検診などの援護、ヒバクシャ国際署名・日本政府に核兵器禁止条約への署名・批准を求める署名行動、国民平和大行進や平和に関わるイベントへの運営・参加に尽力されてきました。

生島さんたち、被爆者の方たちの遺志を受け継ぎ、「核のない世界」を足元から求め続け、子どもたちや孫たちへバトンを渡していくことが世界の平和につながる近道だと考えます。

身近な地域から核廃絶を

松戸被爆者の会会长の生島涉さんが亡くなられて5年が経ちました。

生島さんは、長崎工業高校航空科1年生(13歳)のとき、勤労動員で塹壕を掘っている時に、長崎への原爆投下に遭遇しました。

ここ松戸市に引っ越されてからは小金原に住まわれ、千葉県原爆被爆者友愛会

若い方たちへ被爆の実相を

爆心地から実家は離れていたため、生島さんのご家族は全員(母、兄、姉)無事でした。ところが、原爆投下から3日目に浦上にいた叔母さんといとこを捜しにお母さんと行き、入市被爆することになりました。その時のことについて証言しています。

「行きは県庁の前を通りオオハトに着き

ました。県庁から炎は出ていませんでした。電車通り沿いに長崎駅の方に。その頃には重症の方達も救護所に連れて行かれ、怪我をした人や、顔に赤チンをぬった人などがウロウロしていました。長崎駅前まで歩いて行くと、半死半生の方はいませんでしたが、重症の方もウロウロしていて、何か臭いもするなか、叔母の家に向かいました。膿と肉の腐った様な臭いがしていました。長崎駅から少し行くとガスタンクがありましたが破裂していました。かたわらには倍ぐらいに膨れ上がった馬が2、3頭ゴロゴロっと転がり死んでいました。その上にはハエが沢山集っていました。

その頃から灰だけになった遺体があつたりしました。モリ町を過ぎ、浦上の手前に長崎の製鋼所がありました。その辺りに行くと石炭の山がボンボン火を噴き燃えており、人間の死骸もゴロゴロしていました。浦上駅ぐらいまで行くと、人間の死骸も茶色くなり、何か分らないようなものがゴロゴロとありました。またしばらく進むと、死骸は炭の様に真っ黒になっていました。死体を捜しに来ている人達も居ました。凄い臭いがしていました。私はオオムラの方の学校に疎開しましたが、1年経っても凄い臭いのするところがありました。

その頃には何が何だか分らなくなっていて、死体を見るのも平気になっていました。爆心地から250~260mのところに叔母の家はありました。その辺りは新興住宅街でした。着いた時には何もありませんでした。叔母の家の手前の方は真っ黒焦げでしたが、叔母の家に行くと砂漠の様になっていて、瓦礫や瓦の欠片

見つけた時の絵(絵・生島さんを)



が少しあるぐらいでした。道の様子などから母に『叔母さんの家はここばい』と言いました。叔母の家には、叔母の母も時々遊びに来ていました。私の母はすぐ探し始めましたが、何も無く、そこには潰れたミシンが出ていました。ミシンの影には叔母の白骨遺体がありました。原爆が投下された時間、11時ぐらいですから、台所に居たのではないかと思います。叔母の所には『節ちゃん』という2歳の可愛い子も居ました。投下の2、3日前に私の家に、叔母に背負われて来ました。その子の骨も出てきましたが、取れない状態なんです。母が新聞紙に叔母といとこの骨を拾っていました。その間に私は周りを見て回りました。」

入市被爆したその後、生島さん自身も焼き場の臭いを感じるだけで、原爆投下後のあの惨状がフラッシュバックしてしたり、高熱が出たり、その後体中の骨がバラバラになったように痛んだりと原爆症のような症状に悩まされたと言います。

また、証言ビデオで生島さんは、最後に「原爆は絶対廃絶しないといけないと思います。……2020年までに無くす為、私達が若い方に悲惨さを教えていかないといけないと思います。」と若い方たちへの思いを語っています。

被爆体験証言の方とともに 「次世代と描く原爆の絵」プロジェクトが継続！



▲2022年10月31日、第10回平和市長会議で原爆の絵を制作した4名の高校生のギャラリートークを聴く市長さんたち

広島市立基町高校普通科創造表現コースの「原爆の絵プロジェクト」は2007年に開始され、今年17年目を迎えています。今まで制作された油絵は191点、そのうちの多くの作品が原爆資料館に資料として保管されているそうです。今、その絵の複製や映像データーが全国各地に貸し出され、展示会が開催され、反響を呼んでいます。

基町高校の生徒は広島市内から通っている生徒が多く、保育所・園、幼稚園、小中校と平和教育で毎年のように被爆者の方の被爆体験を聴いて育っています。しかし、このプロジェクトに参加した高校生は、平均4~5回被爆者の方と面談したり、被爆した場所に行ったりし、苦しみながら1枚の絵に仕上げていきます。途中何度も描けなくなり、力にぶつかり、……まさに被爆者の方と高校生の二人三脚で油絵という表現方法で原爆の実相を表現します。このプロジェクトに参加した多くの高校生が今までの平和教育はどこかよそ事だったが、絵の完成

を通して身近な人のリアルな感情として感じるようになったとコメントに書いています。

被爆体験を証言した被爆者の方たちもこの高校生のプロジェクトに核廃絶の希望を見出しています。



本当に、おとうさん？

▲被爆者の笠岡貞子さんが被爆の実相をより伝えるのは絵と考え、10枚の絵を高校生と共同制作しました。この絵は、肉親、お父さんの遺体を描いてもらおうと意を決めたもの。全身が黒く、目だけが飛び出たような遺体。遺体の手前に立っているのは貞子さん自身です。

映画「ひろしま」から「おかあさんの被爆ピアノ」へ —松戸での実行委員会、上映普及に再び始動へ—



映画で思いを伝えたい！

この映画「ひろしま」は、原爆投下後8年目に制作されました。日本教職員組合が再び戦禍を繰り返さない強い思いで組合員に呼びかけ、製作費を捻出しました。当初配給予定だった映画会社は反米色の濃いシーンのカットを要求、製作側はそれを拒否し、自主配給の道を選び込んだ作品です。

この映画には、約9万人の市民が手弁当のエキストラとして参加されています。その中には、原爆を直接経験した方も少なくありません。出てくる服装や鉄カブト等も、広島県下の各市町村の住民から寄せられたものです。それらの映像は、非常にリアルに迫ってきます。

しかし、まさにそうした映画であったために、当時は上映も圧力がかけられた映画でした。被爆の実相を最もリアルに表現している映画と言われています。

松戸では2017年8月13日、松戸市民会館で被爆ピアノコンサートとともに上映され、1000名を超える方が視聴しました。

この映画「ひろしま」の実行委員のメンバーのお一人が松戸被爆者の会会長の生島涉さんでした。

映画「おかあさんの被爆ピアノ」は、被爆ピアノを自らの4tトラックに載せ、全国を回っていた実在のピアノ調律師・矢川光則さんがモデルになっています。

「被爆体験者は段々いなくなっていて、あと10年したら殆どいなくなる。けれど、被爆ピアノはその音色ずっと原爆のことを伝えていくことができる」と矢川さんは、被爆ピアノコンサートを全国で行ってきました。

映画「ひろしま」に関わった方たちがまた、平和を求め始動しています！

松戸上映会
9月9日（土）
10:20～112分上映
13:40～
松戸市民劇場



おかあさんの 被爆ピアノ

佐野史郎／武藤千尋
監督：高橋一也
脚本：大庭圭祐
音楽：山口洋子
撮影：イーラム・ハリス
編集：高橋一也
音響：高橋一也
美術：高橋一也
衣装：高橋一也
照明：高橋一也
撮影助手：高橋一也
音響助手：高橋一也
美術助手：高橋一也
衣装助手：高橋一也
照明助手：高橋一也

詳しくは実行委員会にお問い合わせを！ 石澤090-5810-3652